

漁況予報 い わ し

第201号

【2017年5～6月漁期】

※1 平年：過去5年平均

※2 被鱗体長：口先から尾ビレの付け根までの長さ

= 概況 =

【マイワシ】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、3月は190トンと前年(540kg)及び平年^{※1}(86トン)を大きく上回りました。これは、15日に鎌倉地区を中心に被鱗体長^{※2}(以下同)18～21cmの大羽イワシが大挙来遊したため、生殖腺成熟度が低かったことから産卵後の索餌北上群の一部と思われます。4月は17トン(速報値)と、前年(3トン)を上回ったものの平年(67トン)を大きく下回りました。

まき網は、東京湾側でも相模湾側でも水揚げはありませんでした。

なお、早期発生群(前年11～12月生まれ)のヒラゴ(被鱗体長8～12cm)がカタクチイワシに混じるようになってきました。

【カタクチイワシ】

主要定置網におけるカタクチイワシ総水揚げ量は、3月は290トンで、前年(87トン)を上回り平年(270トン)並でした。4月は200トン(速報値)で、前年(207トン)及び平年(240トン)並でした。

鴨居地区及び佐島地区(1ヶ統)のまき網は餌イワシとして断続的に漁獲しました。

魚体は、9～11cmの小型成魚主体でした。

【シラス】

相模湾のシラス漁は3月11日に解禁となり、解禁直後3日間は沖合域でマシラスの漁場形成があり、200～300kg/統/日の好漁となりましたが、魚体が小さすぎたこともあり漁回避となりました。一方で、沿岸域では漁場が形成されず不漁の1ヶ月となりました。4月に入っても漁模様は好転しませんでした。この要因として、当初、黒潮は八丈島を迂回した後、房総半島南沖まで北上する流路の予測でしたが、実際には八丈島を迂回した後、そのまま東へ流去する型となったため、相模湾への効果的な暖水波及がなかったことが挙げられます。

3月、4月の漁獲物はマイワシシラス(マイワシ仔魚)が8割以上を占め、カタクチシラス(カタクチイワシ仔魚)は非常に少なかった模様です。

なお、5月になり、黒潮の一時的な接岸とともに徐々に漁が上向いてきています。

= 予 報 =

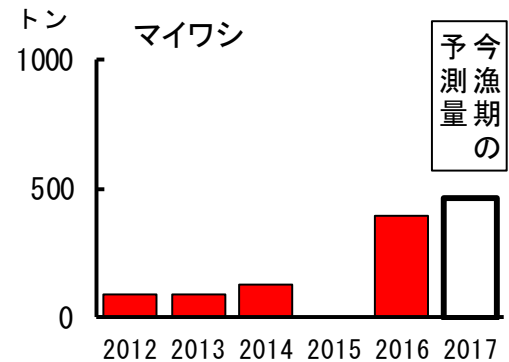
過去5年の5・6月漁期の漁獲量と今漁期の予測量

【マイワシ】

今漁期は、2016年生まれの小羽マイワシ（13～15cm）に加え、後半には0歳魚（2017年級群）が漁獲の主体となるでしょう。

また、概況でも書きましたように伊豆諸島近海には大羽イワシがいますので、その索餌北上群にも期待したいところです。

今漁期の漁獲量は、前年並の約464トンと予測されます。

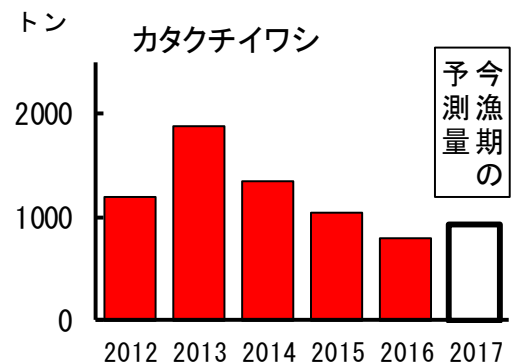


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【カタクチイワシ】

今漁期は、小型成魚（9～11cm）が漁獲の主体となり、大型成魚（12cm以上）は期待できないでしょう。

今漁期の水揚げ量は、前年並の約935トンと予測されます。

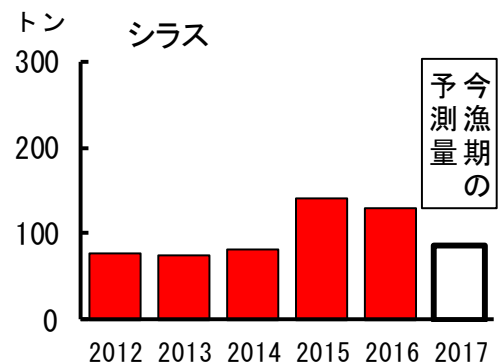


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【シラス】

今漁期は、4月以降に生まれたカタクチシラスが漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、前年をやや下回る約87トンと予測されます。



神奈川県水産技術センター企画資源部
三浦市三崎町城ヶ島 (046)882-2313